ＨＲ掲示

2015SGH 通信 8
2015.11.30 発行

ＳＧＨニュース

第九回全日本高校模擬国連大会にて
ベストポジションペーパー賞受賞！

平成２７年１１月１４日（土）～１５日（日）に、国際連合大学で行われた、第九回全日本模擬国連大会にて、本校から参加したチームが、ベストポジションペーパー賞を受賞しました。

2015年（平成27年）11月27日（金曜日）　中日新聞

模擬国連 旭丘高生が特別賞

国連会議を模して若者が国際問題を討論する「模擬国連」の高校生大会で、旭丘高校（名古屋市東区）一年の田中茉凜（まつり）さん（一五）と浜凪帆（なぎほ）さん（一五）が、特別賞に当たる「ベストポジションペーパー（政策提案書）賞」に選ばれた。二〇一五年度のテーマは「移民」。二人は、今の時代だからこそ考えたことがあった。

（安藤孝憲）

「模擬国連」で特別賞を受賞した田中さん㊧と浜さん＝名古屋市東区の旭丘高で

模擬国連は、参加者が各国の大使役となり、決められたテーマに沿って英語と日本語で討議、国連の規則にのっとり決議や声明をまとめる。二人が割り当てられた国は、アフリカ南西部のアンゴラ。「最初はどこの国なのかも分からなかった」と振り返る。

書類選考を経て出場が決まった十月以降、田中さんは国際機関の英文サイトで情勢を調べ、浜さんは図書館で参考資料を探した。アンゴラは〇二年の内戦終結後、外資企業の進出で経済成長が続く一方、移民が安い労働力として搾取されている現状を知った。

そこで二人は外資企業に労働者の人権保護を義務付け、成果を報告させたり、違反した企業名を公表したりすることを柱に政策を提案。優れた内容と評価され、討論後に採択された「決議」にも原案通り盛り込まれた。

米国ニューヨークで開かれる国際大会には進めなかったが、引率した同校の服部誠教諭（五五）は「難解な問題と真剣に向き合う姿勢が評価された。最高の栄誉と思っている」とねぎらう。

調査や討論の中で、背景には戦争や内戦があり、移民問題がテロや犯罪にも結びつくことを知った。田中さんは「私たちの討論は『模擬』だったけど、問題は実際に起きていること。今は知識や経験が足りなくても、いつか本当に解決への力になれたらいい」と話す。

国際大会に出場する最優秀賞、優秀賞の計六チームの生徒たちは、英語力に優れ、話しぶりや議論のまとめ方もうまかった。「とても刺激になった」と浜さん。来年もまた、二人で挑戦するつもりだ。

田中さん、浜さん 移民の人権保護提案

模擬国連　国際問題への理解を深めようと米国で発祥した教育活動。日本の高校生大会は2007年に始まった。15年度は東京の国連大学で11月14、15の両日にあり、応募のあった過去最多の136校203チームから選ばれた80チームが出場した。

（中日新聞より引用）

SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL